

2016年度 京都大学公開森林実習 I 実施報告

—近畿地方の奥山・里山の森林とその特徴—

Joint Field Practices in Kyoto University Forest

- Characteristics of Forest landscape of “Okuyama” and “Satoyama” in the Kinki district -

対象学生：他大学の全学部、主として2・3年次生対象。

担当教員：吉岡崇仁・徳地直子・坂野上なお・中川 光・東 若菜

協力者：藤原 誉（田歌舎代表）、中坂 昭（株式会社北桑木材センター会長）

実習の概要と目的：上賀茂試験地における近畿地方中部の里山の特徴を有する都市近郊林の自然植生とナラ枯れ・マツ枯れ被害、マツ類を中心とする外国産樹種とその特徴、芦生研究林における日本海側の多雪地帯の要素を有する原生的森林植生とニホンジカの食害による植生の変化、由良川源流域の水質調査について、講義と実習を通して学ぶ。シカの有害捕獲に関わる問題点や山での生活、山の恵みについての講義や京都における原木売買の歴史と現状について講義を受け、木材市場の現場を視察し、森と人間社会の関係についても理解を深めることを目的としている。

受講生：3名

北里大学獣医学部2年、千葉大学園芸学部2年、東京大学農学部4年、各1名

なお、京都大学の全学共通科目ILASセミナー「京都の文化を支える森林—森林の持続的管理に関する地域の智恵と生態学的知見からの検証」（京大生3名）と併催で実施した。

日程：平成28年9月7日（水）～9月9日（金）

9月7日

ガイダンスおよび上賀茂試験地の概要説明

里山近郊二次林・マツ林・ナラ枯れ被害・マツ枯れ被害の見学・解説

森での暮らしとシカなどの有効利用に関する講義

9月8日

芦生研究林の概要説明、樹木識別法実習、河川水質分析実習

芦生研究林上谷周辺の天然林の観察、樹木識別実習とシカ食害に関する現地踏査

北海道研究林との間でネット回線によるTV会議システムを利用した情報交流

9月9日

南丹市美山町北地区伝統的建造物群の見学（かやぶきの里）

京都の林業を学ぶ（北桑木材センター）

北白川試験地・材鑑室の見学

レポート作成・提出

実施の内容

上賀茂試験地では、里山的景観を保ちながら林分として生育してきた歴史を学んだ上で、外国産樹種を含め多数の樹木が生育する林内を観察し、植物の多様性を学んだ。また、マツ枯れ、ナラ枯れやシカ食害など、森林植生への影響の実態を目の当たりにしながら、森林環境保全について考察した。芦生研究林では、芦生地域で有害捕獲事業に携わっている藤原誉氏（田歌舎代表）から、森での暮らしや鹿・猪を森の恵みとして利用することなどについて解説を受けた（写真1）。ニホンジカの増加が、オオカミの絶滅や猟師の減少では説明が付かないことの説明があったが、現場の生活者の目線からの話題には説得力があり、受講生は大いに感銘を受けていた。また、森林環境の保全には、個々人の価値観を見つめる必要があるとの意見も印象的で、翌日の懇親の場も含めて熱心な質疑応答が繰り広げられた。二日目は強雨のため、予定を大幅に変更し、研究林事務所構内にて樹木識別法実習と水質分析実習を行った後、上谷・下谷の植生を観察し（写真2）ながら、樹木識別実習を行い、またシカ食害に関する実験地を視察しながらシカ問題について解説を受けた。三日目は、人間と森林の関わりを体験するため、かやぶきの里の景観を視察したのち、北桑木材センターの中坂会長から京都の林業の歴史と大径木が利用され難くなってきたという現状について話を伺った（写真3）。市場が開かれた直後であったためか、センター構内には多くのスギ・ヒノキの材が並べられており、重機が手際よく椋（はい）積み作業をしているなかで、会長から材の良し悪しの見分け方や価格などについて教わった。北白川試験地では、見本園で主な樹種についての解説を受け、材鑑室では、100種以上の樹種について樹皮を間近に観察した。フィールド研会議室にてレポートを作成の後解散した。

今回、教育関係共同利用拠点としての取組みの一つとして、二日目の野外実習終了後、北海道研究林との間でTV会議システムを利用した情報交換会を開催した。この日、北海道研究林では、京大農学部生が研究林実習（Ⅲ）を実施しており、本州と北海道という異なる植生帯で、今まさに実習を行っている学生の間で、それぞれの実習で得た知見に基づいて、意見を交換することができた。今回初めての試みであったため、機器の設定や情報交換会の進め方に手間取り改善する必要が認められたが、教育効果の高い充実した実習にできるものと考えられた。

本実習では、お忙しい中、藤原誉氏、中坂昭氏には講義や質疑応答にご協力いただいた。各施設の技術職員、事務職員の皆さんにも、実習の受入れや林内実習のお手伝いなどで大変お世話になった。また、TV会議では、北海道研究林の舘野林長はじめ教職員のみなさん、さらには、質疑・討論に参加した研究林実習Ⅲの受講生のみなさんにもお礼申し上げる。



写真1 藤原氏による森の暮らしに関する講義



写真2 芦生研究林下谷の大カツラでの集合写真



写真3 北桑木材センターでの木材取引に関わる講義